



平成25年7月1日(月)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部  
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号  
電話番号 : 03-5408-4620  
発行責任者 : 白土 雄二郎  
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

## 第106号

### 【目次】

1. 2012年度省エネ実績
2. 輸送安全規則の一部改正について  
(運行管理者選任を義務化)
3. 物流業界におけるスマートフォン等の活用状況
4. 3Dシミュレーションソフト活用事例
5. 菱化ロジテック社 ~九州支店紹介~
6. Japan IT Week 春 2013 参加レポート
7. キャッシュフロー経営研修会受講レポート



## 1. 2012年度省エネ実績

当社は特定荷主(※)様への報告用や3PL事業者としての省エネ推進及び自社の省エネ活動推進の為に、輸送におけるエネルギー使用量を算出するシステムを構築し運用しております。

この度2012年度の当社エネルギー使用実績を掲載致します。

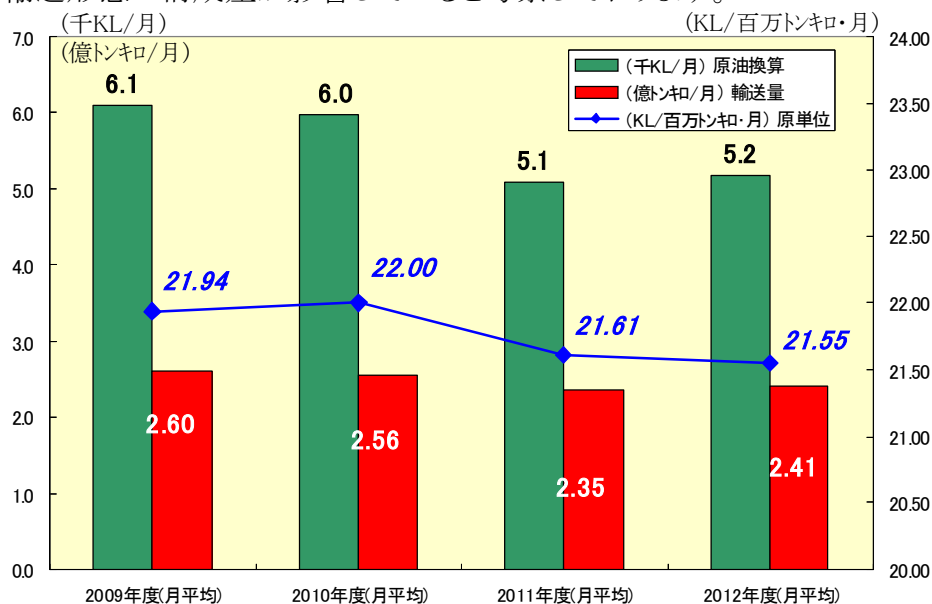
まず、全体の原単位については対前年比で0.06KL/百万トンキロ(月平均)改善されました。部門別に原単位を見ますと、トラックが対前年比で2.2%悪化、内航船は5.7%向上しております。

この主な要因ですが、

①陸運部門については、輸送比率でトラック(特に路線便比率増)が1.4P増加、JRが1.2P・フェリーが0.2P減少していることによる輸送形態の構成差が影響していると考察しております。

②海運部門は、ロットアップ及び省エネ運行(2012年度はフレンドフィン装着の第103菱化丸の就航と二重反転プロペラ装着の第5菱化丸の就航あり)の定着による向上と考察しております。今度も環境・省エネに貢献できるよう活動を推進してまいります。

※年間輸送量3000万トンキロ以上の荷主。



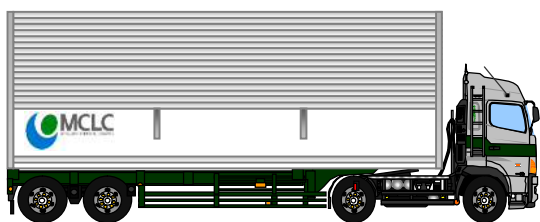
## 2. 輸送安全規則の一部改正について(運行管理者選任を義務化)

国土交通省は、トラック産業の安全対策、市場構造の健全化に向けての対策として、トラック運送事業の許可基準である「最低車両台数5台」を割る事業者に対し、運行管理者の選任を義務付けるため貨物自動車運送事業法の輸送安全規則を一部改正しました。

(公布は2013年3月29日、施行は2013年5月1日)

改正では「すべての営業所に運行管理者1人以上の選任」を義務付けるが、5台未満の運行を管理する営業所であって、地方運輸局長が当該事業用自動車の種別、地理的条件その他の事情を勘案し運行の安全確保に支障を生ずるおそれがないと認めるものについては対象外となります。

今回の義務化は5台割れ事業者だけでなく、小規模営業所を分散する事業者にも大きく影響するとみられます。



経過措置として、「改正省令公布時に5台割れの事業者については2014年4月30日までの間は、従前の例による」こととなります。

また、運行管理者試験の受験者は、ここ数年の間、減少傾向にあったが一時的な増加も予測され、試験会場の増設も検討されます。

また、運行管理者制度も見直しされ、現行の基礎講習、一般講習、特別講習とは別に、選任時講習を義務付け、受講しない場合は行政処分の対象となります。

## 3. 物流業界におけるスマートフォン等の活用状況

スマートフォンやタブレット端末(以後スマホ)は、すっかり我々の生活に浸透した感があります。最近では「歩きスマホ」に対して規制を設けるかが話題になるくらいです。確かにスマホは便利なのでつつい周りが見えなくなるのでしょうか(苦笑)。

そんなスマホを物流業界ではどの様に活用しているか調べてみました。

スマホの利点として挙げられるのは、当たり前ですが通信機能が使えることでしょう。例えば、倉庫での検品作業でバーコード検品をする場合、従来であればバーコード端末に取り込んだデータを専用の読み取り機へアップロードするため、わざわざ読み取り機がある場所へ移動しなければなりませんでした。スマホなら何処からでもデータを送信してしまえば良いわけです。勿論、出荷指示を取り込むのも何処でもできますので、作業者の動線短縮が可能です。また、管理面でも在庫状況を何処からでも確認することが可能となり、非常に効率的だと思います。

その他にはトラック出発時の点呼への活用があります。スマホ搭載のカメラを使えば乗務員と点呼担当者がお互いの顔を見ながら実施できますし、アルコールチェック用に開発された機器を接続すれば飲酒の有無も即座に確認できます。

また、スマホで始業点検を行うことも可能なので、その結果を送信すればチェックリスト等の帳票も必要ありません。データベースにも漏れなく蓄積されますので、解析や管理もやり易くなり、安全運行にも繋がると考えられます。

用途はこれから益々広がっていくと予想されます。従来は、所定の機能を持った専用の端末が必要でしたが、スマホならば様々なアプリケーションを追加でき、1台で何役も対応できるので、アプリケーションに対するニーズは更に高まり開発も進むことでしょう。

当社でも 物流作業時間の集計をスマホを活用して簡素化、精度向上が図れないか、更には効率化立案に直結したシステムを構築できないか検討を進めています。



## 4. 3Dシミュレーションソフト活用事例

昨年97号で3Dシミュレーションソフト(株式会社シーイーシー社製RaLC)の導入をご紹介しましたが、今回は活用法の1つとしてプレゼンテーションでの使用事例をご紹介します。

当事例は、ある海外のお客様が当社に委託している作業をご視察になる際、

1. 当日は対象作業が行われていない
2. 作業範囲が広く俯瞰的に見る事ができない
3. 訪問者が海外の方で日本語が通じない(異種言語による意思疎通上のハードル)

という条件の中で、言葉やパワーポイント等の絵による説明だけでは作業の全体的イメージをお伝えする事が困難と判断し、当該3Dシミュレーションソフトを活用しプレゼンテーションを行いました。

当日は拙い説明にもかかわらず、ビジュアルに訴えた事で作業イメージを明確に相手方へ伝える事ができました。その後の現地視察においても双方ポイントをついた質疑応答を交わす事ができ、大変有意義な視察となりました。

また、当該シミュレーションを作成する過程で、これまで見えなかった作業上の着眼点も顕在化する事ができました。

今後も解析ツールとしての活用とあわせ、営業ツールとしての活用も推し進めていきたいと考えております。



## 5. 菱化ロジテック社 ～九州支店紹介～

菱化ロジテック九州支店は、三菱化学物流社黒崎支社の1階に支店事務所を置き、ローリー輸送の輸送1グループ、トラック輸送の輸送2グループ、構内物流の生産物流グループ、自動車分解整備事業及び給油・燃料販売の車両整備グループの物流実働部隊で、主に三菱化学社黒崎事業所製品の物流業務を行っています。

輸送1グループは営業車両60台(内32台はトレーラー)、乗務員23名で危・毒・劇物の輸送に従事、輸送2グループは営業車両106台(内36台はトレーラー)、乗務員81名で関西・中京方面長距離と地場、構内持替、コンテナ輸送等を行っています。

生産物流グループは荷役車両11台を有し、運転・作業員29名で倉庫内荷役と製品入出荷作業を、車両整備グループでは社内外を問わず大型・小型・特殊車両や乗用車の修理・点検・車検を行っています。

支店長以下総勢165名はRC業務方針重点施策の実践を、愚直に積重ねてまいります。  
『安全を最優先に ルールとマナーを守り 物流品質の向上と環境負荷の低減を実践します。』

(輸送1グループ車庫)



(輸送2グループ車庫)



(生産物流グループ)



(自動車整備工場)





## 6. Japan IT Week 春 2013 参加レポート

2013年5月8日～10日までの3日間、東京国際展示場(ビッグサイト)で開催された「Japan IT Week 春 2013」に参加してきました。

この展示会は、「情報セキュリティEXPO」「スマートフォン&モバイルEXPO」など、11の分野の専門展示会から構成されており、全体で約1,400社が出展し、3日間の来場者数は85,000人にのぼったということです。

私たちはこの中で、EC(※)サイト構築、決済、集客、物流、コールセンター、電子カタログ作成、ネットショップ出品運営代行、EC商品撮影サービスなどが出展する「通販ソリューション展」を中心に回りました。

この「通販ソリューション展」も、今回の展示会全体の傾向と同じく、最近のトレンドを反映して、スマートフォン・モバイル機器・クラウドコンピューティング技術などを導入した出展が多かったように思います。

物流分野からの出展数は決して多くはありませんでしたが、今後様々な検討を実施する上で参考になりそうな、最新技術を取り入れたTMS(輸配送管理システム)やWMS(倉庫管理システム)、ハンディターミナルなどを実際に目にすることができ、大変充実した展示会でした。

※EC:electronic commerce=電子商取引



## 7. キャッシュフロー経営研修会受講レポート

2013年5月28日、三菱化学社業務革新室主催の「実践 キャッシュフロー経営研修」に参加してきました。

本研修会はキャッシュフロー視点による指標管理、在庫管理、リードタイム管理、原価管理の4回構成となっています。生産・販売関係者向けの講義ではありますが、在庫管理やリードタイム管理など物流サイドから見ても参考になる内容でした。

今回はキャッシュフローの基本と次回以降の研修に向けてのステップでした。研修内容は「キャッシュフロー経営の目的」「キャッシュフロー計算書の構成」「指標管理の重要ポイントと実践」の3つが紹介されました。

この中で印象に残ったのが「指標管理の重要ポイントと実践」です。コスト削減は経営層と現場の温度差があったり、削減率の可視化が明確にできず現場のモチベーションが上がらないなど、様々な要素からうまくいかないことがあります。その為、経営層は人、仕組み、環境など様々な問題を検証して、組織全体を同じベクトルへ向けるリーダーシップが求められます。更に活動指標を作成して、指標を数値で“可視化”し、管理することが重要だそうです。

キャッシュフロー視点による指標管理の意義と、その実現における「経営層と現場の連携」の重要性を改めて理解した研修会となりました。



ソリューション営業部 吉田 亮二

初めまして。今年の2月よりソリューション営業部に加わりました。宜しくお願ひ致します。  
5月に冒険家の三浦雄一郎さんが最高齢80歳での世界最高峰エベレストに登頂することに成功しました。日頃の鍛錬の成果とは思いますがすごい事です。

登山と言えば、数年前、世界文化遺産に登録される事になった富士山に登頂しました。直線なら4km程度かなと軽く考えて日帰り挑戦しましたが、非常にきつかった事を思い出しました。

今年の夏は、富士山に行く予定はありませんが、何か別の思い出に残るイベントでリフレッシュして仕事に邁進していきたいと思ひます。何をするかはとりあえずビールでも飲みながらゆっくり考えます。